

続・ふるさと ハツ木若狭劇場②

第64回

屋外映画館を始めて2、3年後、若狭さんは大きな建築作業小屋を新築した。南北に3間(5.4メートル)、東西に10間(18メートル)の約100平方メートルの規模で、当時の若狭さんの建築請負規模にしては立派過ぎるものであった。若狭さんは、これを映画館に利用することを考えていたのだ。この作業小屋兼若狭劇場が完成すれば、雨を心配せずに計画どおりに映画が上映できるようになる。

作業小屋の映画館への衣替えは、材木や大工道具を小屋の外に出し、作業小屋を空の状態にして取り掛かった。一番西奥にスクリーンを張り、東奥の（田村高廣ら田村3兄弟

床から2メートルほど高い部屋を映写室にした。床は前半分にむしろを敷き、後半分に長いすを並べ、150人ほどが入れる映画館となつた。

また新し物好きの若狭さんは、ほかの大工よりいち早くトラックを買った。材木の運搬に使う一方で、トラックにスピーカーを付け映画の宣伝車として大いに利用したのだ。



の父の「雄呂血」などの无声映画を上映するときには、スクリーン脇で映画を盛り上げるために音楽を奏でるバイオリニストと、映画の内容やセリフを語る活動写真弁士を呼び寄せた。活動写真弁士の名調子の話芸に、観客はハラハラドキドキ、拍手喝采となるのであった。

（K）
■天満宮（西水沼）
昭和12年ごろまでは無声映画が主流で「目玉の松ちゃん」とこと尾上松之助の大剣戟や阪東妻三郎

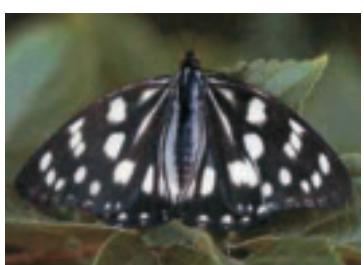
編集後記

□また夏がやってきました。年々、夏が暑くなっているのは、気のせいではないようです。□アスファルトに囲まれているわが家は、7月には早くも冷房が必要になります。昔は、緑があつたのでよかつたのですが、今では照り返しがきつく地獄のような暑さになりました。緑の大しさを、日々痛感しています。

■役場では、グリーンカーテンを作つて暑さ対策をしています。アサガオ・キユウリ・ゴーヤなどさまざま。私も家で植えてみましょうか：

しまとかしの 芳賀の自然

16



ゴマダラチョウ チョウ目タテハチョウ科

写真提供=芳賀町自然に親しみ会
分 布=北海道南部～九州
生息地=平地林の雑木林や都市部の公園
時 期=5月～8月(年3回発生)
食 性=ニレ科のエノキなどの樹液や腐った果実。

大きさ=開張(羽を広げた最大値)60～75mm
特 性=オオムラサキと同じ環境を好み、生息地は重複することが多い。冬期は地上に落ちたエノキの落ち葉の中で越冬する。

■編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
■発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
■芳賀町ホームページアドレス
<http://www.town.haga.tochigi.jp>

①芳賀町の携帯サイトはコチラから▶



この印刷物は、E3PAのゴールド基準に適合した
地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
E3PA: 環境保護印刷推進協議会
<http://www.e3pa.com>